

2021年1月4日

2021年、新年に想う ― 穏やかな年でありますように ―

九州工業大学学長 尾家祐二

“未来を思考する「モノづくり」と「ひとづくり」”

新年おめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、多くの社会活動、経済活動が影響を受けました。本学も、5月から全面遠隔授業に切り替え、現在では対面授業も併用しながら、効果的な教育、学習形態の検討を続けております。また、このような中におきましても、多くの皆様に、本学の教育研究活動にご理解、ご協力並びにご支援頂きました。誠にありがとうございました。

さて、技術革新が目覚ましく、グローバル化が急速に進展していく現代は、不透明で、不確かさが増す時代です。さらに、この度の感染症の拡大によって、社会全体で不安が増えています。このような時こそ、気持ちを落ち着かせ、過去から学び、そして考えなくてはならないと強く感じます。

不安定な状況の中で、人はどのように考えたのか、14世紀、17世紀にヨーロッパ全域で猛威を振るったペストを振り返り、1, 2例眺めてみたいと思います。14世紀中ごろから蔓延し、14世紀の終わりごろまで、その恐怖は残ったそうです。犠牲者数を明らかにすることは困難ですが、7000万人ほどの死者がでたとも言われています。「ドン・キホーテ」を著したセルバンテスは、まさに16世紀中ごろから17世紀はじめのころの人で、オスマントルコ帝国とのレパントの海戦にもスペイン側で参加し、負傷したそうです。「ドン・キホーテ」は、騎士道物語を読みすぎてその物語と現実世界の区別がつかなくなった主人公が騎士として遍歴する話として有名です。その中では、ペストで亡くなった人を吊う行列も現れます。ドン・キホーテはいつものように誤解して、もめ事を起こしてしまいます。そのような彼ですが、言うことは理にかなっており、「拙者は、本当の勇気というものが、

臆病と無鉄砲と言った二つの極点をなす悪徳の間に位置する美德であるということをよく
こころえておる」、と思慮深さ、中庸の大切さを述べています。

16世紀にはフランスでも、ペストが広まりました。そのころ政治、宗教問題で、争いごと
が続く、争乱の時代でした。「エッセー」(随想録)などで知られるフランスの哲学者モン
テーニュは、そのような中で、ボルドー市長も経験し、ペストが蔓延した際は、自分の城
を出て避難生活を送ったりもしました。彼は、「自分の性癖と気質にあまり固執してはな
らない。我々の最も肝心な能力は、さまざまな習慣に順応できるということである」と述
べ、「最も美しい精神とは、最も多くの多様性と柔軟性を持った精神である」と述べてい
ます。さらに、結論を急ぐことなく、「納得できない場合には、少なくともそれを未決の
ままにしておかなければならない」と言っています。変化が激しい中であっては、自分の
信念にもこだわりすぎず、多様で柔軟な考えや行動で対応することが大事であるというこ
とでしょうか。

今の私たちは、まだコロナ禍の中にいます。罹患された方々、犠牲になられた方々も増
え続け、医療機関、介護施設等では、多くの方々が対応に追われています。さらに、経済
活動の低迷による影響も大きなものとなっています。もうしばらくは、これまでの多くの
賢人が説いている、寛容さ、多様性、そして思慮深さの大切さを理解して、このような状
況に対応していかなければならないと思われます。

九州工業大学は、今後も、安心して学べ、安心して働ける環境の確保に心掛け、教育研
究機関としての機能を果たし続けるために、学内外の人々、組織と連携して知恵と実行力
を集め、様々な取り組みを進めてまいりたいと考えております。皆様方にとりまして、本
年が穏やかで、多くの良い機会に恵まれる年となりますことを祈念し、引き続き本学の活
動に皆様のお力添えをお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

○ 参考にした本

- ・ 村上陽一郎著「ペスト大流行 -ヨーロッパ中世の崩壊-」岩波新書
- ・ セルバンテス著「ドン・キホーテ」岩波文庫
- ・ 堀田善衛著「ミシェル 城館の人」集英社文庫